

「平成28年度インドネシア視察研修」事業を実施

今年度は、インドネシア（ジャカルタ、バタム島）を訪問し、工業団地、日系進出企業、商業施設、道路・港湾等の視察を行いました。インドネシアにおける最新の現状と課題について理解を深め、県内中小企業の今後の製造拠点、販売網、マーケット等の投資の可能性を探り、また現地との人脈づくりにつながりました。

■ 日 程 平成29年1月15日（日）～21日（土）

■ 参加者数 12社・団体、19人

■ 訪問国 インドネシア

■ 視察先

(1) ジャカルタ

- ・ ジェトロジャカルタ事務所（ブリーフィング）
- ・ 大型商業施設、ローカル市場等
- ・ 日系工業団地にて、製造業、食品加工業、サービスマン
ション
- ・ タンジュンプリオク港新コンテナターミナル
- ・ 現地進出日系企業との交流レセプション

(2) バタム島

- ・ バタム開発庁（ブリーフィング）、工業団地
- ・ 医療機器工場

■ 概 要

・ インドネシアは人口2.5億人で若年人口が多く、人口ボーナスが2030年頃まで続くと言われてしています。

・ ジャカルタ近郊のGIC工業団地では、日系の機械、自動車部品会社や調味料製造会社などを訪問し、インドネシアの最近の経済状況、物流、工業団地の利点等のほか、人材確保の難しさ、現地パートナー探しの重要性、現地従業員の文化・生活を理解して接することの必要性、また食品では現地の嗜好に合わせた製品開発が重要であること等をお聞きしました。

またインドネシア最大の港、タンジュンプリオク港の現状と整備状況も視察しました。

・ バタム島は、インドネシアですがシンガポールからフェリーで1時間と近く、自由貿易港があり関税等が免税で、輸出拠点として多くの日本企業が立地しているとのことでした。

〈参加者の声〉

- ・ ジャカルタ周辺の道路渋滞や、輸送量に対して港湾設備不足するなどインフラの不十分さ、また輸入規制などの諸課題はあるが、インドネシアは今後も人口が増加し中間層も増大しており、大きな活力を感じる国である。
- ・ 首都ジャカルタを中心に活気に溢れている。まずは大ジャカルタエリアの3千万人を相手にした商品・サービスの提供を目指してはどうか。
- ・ イスラム教が生活に根ざしておりハラルの必要性を感じた。等のご感想が出ました。



(ジャカルタ市内)



(タンジュンプリオク港)